

ヘルパーお供でのんびり

ようこそ！ バリアフリー温泉

相模原市のホームで暮らす母(68)、長男(48)、長女(46)三人の旅。ヘルパーの資格を持つ外出支援専門員「トラベルヘルパー」(女性)が寄り添います。

「介護状態(要介護4)になった母が一時帰宅できるようにになり、最初は母の故郷の北海道の小樽に連れていきました。たまたま雑誌でトラベルヘルパーを知り、依頼しました」と長男が話します。

北海道までのフライトは想像以上に母を疲れさせ、もう一度訪れるのを母は嫌がりました。そんな時にバリアフリー温泉の富士レークホテルを知りました。

五年前、「母が暮らすホームから車で二時間で行けるので」(長男)と、二泊三日で計画しました。ただ、ホテル周辺の観光地を巡る忙しい旅は、やはり母を疲れさせました。

試行錯誤を重ね、ホテルの滞在時間を十分にこたした旅にたどり着きました。毎年、春の大型連休に三人でのんびり過ごすため訪れます。帰る時に、翌年の予約を入れるのも恒例です。

「母に富士山を見せてあげたい。温泉に入れてあげたい」という毎年恒例の一家の旅に同行しました。

行き先は昨年七月の連載初回で紹介した「富士レークホテル」(山梨県富士河口湖町)。ご高齢の方や、身体が不自由な人が使いやすい山梨県の河口湖畔に立つ瀟洒なホテルです。

相模原から富士レークホテルへ

家族旅行同行ルポ

上



今年の家族旅行も母が暮らすホームに子供たちが集まり、介護タクシーでホテルまでやってきました。客室に入ると、長男はすぐにベッドに防水シートを敷き、身体を安定させるための小型クッションを母の脇に三つ四つ置きます。部屋には使いなれた介護用品を並び、母が快適に滞在できるように整えました。

ただ、移動は常に車いすを使い、食事や入浴などに介助が必要な母のサポートは全てトラベルヘルパーが担います。

ベッドにいた時間が長い母を慮り、ベッドから富士山とテレビが見やすい客室を利用します。この部屋はバリアフリー対応の貸切風呂に隣接しています。引き戸一枚で、目の前に富士山がそびえる絶景のお風呂があるのです。

「母は、ゆっくり休めて、ホームでは食べられない食事ができて、家族がそろってこの旅が一番満足できているみたいです」(長男)

(温泉エッセイスト・山崎まゆみ)

①介護タクシーに乗り込む。車いすを押している人がトラベルヘルパー、受けているのは運転手 ②母と長男の家族写真(いずれも山梨県富士河口湖町で)

データ ● ● ●
 トラベルヘルパー 介護技術と旅の業務知識をそなえた「外出支援」の専門家。介護旅行を専門とする「あ・える倶楽部」はトラベルヘルパー付きの旅の手配も請け負う。「あ・える倶楽部」=電03(6415)6480=へ。